

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○授業時間と行事の両立ができる教育課程の編成をする。 ○生徒が主体的かつ協働的に学び理解を深められる授業力向上を推進する。	○新たに編成した教育課程について、その効果的な実践に向けた授業研究を行い、生徒の課題解決力の向上を図る。	・55分授業を効率的かつ効果的に展開し、生徒の主体的な学びと深い学びを実施する。 ・学習について単元ごとに言語活動を取り入れるなど多角的に研究し、生徒の思考力および表現力の向上に努める。	・55分授業の工夫により、生徒の主体的な学びと深い学びとなったか。 ・授業研究を組織的・効果的に実施し、生徒の思考力や表現力が高まったか。	・プラス10分(55分授業)に係る研究協議及び生徒の主体的・対話的で深い学びについて等の職員研修を年間5回行い、全教員が授業実践に生かした。 ・年間3回の互見週間や公開研究授業に対して事前協議を組織的に行い、生徒の思考力・表現力向上の方策について共通理解を持つことができた。	・生徒は落ち着いた雰囲気の中で、55分授業に取り組んでいる。多くの科目で生徒の主体的な活動が実践され、学習内容の定着が図られた。 ・各研修を実施し、高校で求められる生徒に身につけさせたい力を理解し、授業の工夫がなされ、生徒の発言・発表の機会が増えた。 ・よりよい授業づくりのための校内研究及び研修を引き続き行っていく。	・55分授業等、職員の授業改革に対する努力がうかがえ大いに評価したい。より良い授業づくりの研究や研修はよい。 ・今後は、授業展開のさらなる工夫とともに主体的・対話的で深い学びの評価に取り組んでほしい。 ・55分授業の中で、生徒は自ら参加し、成果をいかに効果的に実感できるような方策も必要と考えられる。	・55分授業にしたことにより、授業時間の確保と行事の両立を目指した教育課程が実践できた。 ・生徒が主体的かつ対話的な授業の実現に向けて、職員研修の内容を充実させ、共通認識を高めて、55分授業における効果的な方法についての研究が深化された。	・授業力向上推進重点校として、生徒による授業評価アンケートや成績、進路状況などを総合的に分析し、生徒の進路実現に向け、学習内容を深める授業研究のさらなる進化を目指す。
2 生徒指導・支援	○規範意識やルール・マナーを重視し、協調して創造する力を育成する。 ○部活動や学校行事の一層の活性化を図り、リーダーシップを育成する。	○交通ルールやマナーを守り、自転車による事故0を目指す。 ○規範意識の醸成と他者を尊重する態度を育成する。 ○部活動と行事と日々の生活を一体と捉え、すべてにおいて主体的・積極的に活動できるようにする。	・服装、頭髪等の諸校則を理解・遵守させ、規範意識を育成する。 ・交通ルールやマナーを遵守させ、社会性を育成する。 ・教育活動全般を通じて、他者を尊重し協調する態度を育成する。 ・生徒が主体的・積極的に活動できるように指導を工夫して行い、学校生活を一体と捉え、充実した生活が送れるように支援する。	・服装、頭髪等の諸校則が守られたか。 ・交通ルールやマナーが守れたか。 ・生徒が他者を尊重し協調する行動を取ることができたか。 ・生徒が主体的・積極的に活動できたか、また、生活に充実感を持つことができたか。	・校則を遵守しようという姿勢が見られ、規範意識を涵養することができた。 ・交通ルールやマナーについて、日常的にHRや集会等で粘り強く指導を続けた。 ・きめ細やかな日常の観察・指導により、他者を尊重する態度を育成し、年間2回のアンケートを実施して「いじめ防止」に努めることができた。 ・概ね、生徒自身が主体的・積極的に活動できた。日々の指導も工夫して行い、学校生活を一体と捉え、充実した生活が送れるように支援できた。	・職員の共通理解のもと、きめ細やかな指導を続け、規範意識や他者を尊重する態度をさらに高めていく。 ・交通ルールやマナーに関しては、粘り強く指導を続け、より意識を高める必要がある。 ・今後は生徒が自ら考え、創造的な活動の充実が課題である。また、積極的な活動がより一層活性化させることも挙げられる。 ・傾聴を心がけ、時代の流れを把握し、充実した学校生活が送れるように指導する側も研鑽を重ね支援を行っていく。	・全体を通して共通認識のもと生徒指導が行き届いていると感じる。これからは、個々の生徒に配慮した教育相談体制の構築に努めてほしい。 ・生徒の主体的・積極的な活動をさらに支援することで、自己肯定感・自己有用感の育成に努めてほしい。 ・情操教育に重きを置き、他者への思いやりと規範意識を大人の前段階でしっかり身につけることが大事。	・服装、頭髪指導が浸透し、すべての生徒がルールを守ると意識が向上している。 ・地域と協働した交通安全デーや本校職員による駐輪指導など、交通ルールやマナーの指導に取り組んでいるが、自転車による事故やマナーについての苦情は絶えないことから、継続的な指導の必要性がある。 ・いじめ防止の観点から、他者を尊重し協調する態度の育成は、今後も指導が必要である。 ・部活動や行事については、生徒の主体性が発揮され、自主自律の意識やリーダーシップの育成の深化に繋がり、実績を残している生徒がいる。	・交通マナーやルールの遵守については、交通安全講演会などを実施するなど生徒自身の認識を高める取組を検討する必要がある。 ・思いやりの心を培い、他者を尊重し協調する態度の養うために、生徒対象の人権講演会等を企画するなど、互いの人権や生命の大切さについて理解させる工夫が必要である。 ・生徒主体の活動を支援し、部活動や行事をより一層活性化するために、活動内容や環境を整備して、生徒一人ひとりに達成感や充実感を感じさせる。
3 進路指導・支援	○自らの役割の価値を見出していく自己探求を行い、社会実践力を育成し、キャリアをデザインできる力を育成する。 ○第一希望の進	○社会の情勢や変化を的確に捉え、自らの役割や価値を見出せるような自己探求を行い、社会実践力とキャリアデザイン力を育成する。	・総合的な学習の時間の学習を通して、社会へのさまざまな関わり方を知り、キャリア形成と自己実現の意識を高める。 ・学習および進路に関するきめ細やかな面談を実施し、家庭	・生徒がキャリア形成と自己実現の意識を高めることができたか。 ・きめ細やかな面談を実施するなどにより、組織的にキャリアデザインを考えさせることができたか。	・総合的な学習の時間の学習計画に基づき、キャリア形成と自己実現の意識を高めた。 ・4月当初の面談、7・8月の三者面談等、年間2回以上の個別面談を実施し	・各自の将来像を描くためには、変動の激しい現代社会を常に的確に捉える態度の形成が必要である。 ・第一希望の進路実現を支援するための情報はとても多様に存在するため、より有効な支	・「第一希望の進路実現」という言葉からは旧来の進路指導のマッチング理論のように聞こえる。例えば、「自己のキャリア・デザインに沿った全ての生徒の進路実現を支援する」などの表現を検討	・各学年とも早い時期から面談等を行い、生徒自らのキャリア形成と自己実現に向け、丁寧な支援を行っている。 ・大学入試制度改革などの変化する情報に対して、的確に分かりやすく提供することが必要であ	・総合的な学習の時間を軸にして、進路説明会や外部講師による講演会等、また個別面談を活用して、さらなるキャリア教育の充実を目指すしていく。 ・進路の第一志望実

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		路実現を支援するための系統的な進路指導体制を構築する。		や地域等の教育力を活用しながら、将来を見据えたキャリアデザインを考えさせるとともに、第一志望実現に向けて粘り強く努力する姿勢を養う。		た。また、3年生においては、第一志望実現に向けて、面接指導や学習支援を行い、きめ細かい進路支援を実現した。	援を行うためにはどの情報が適切であるかを吟味し、適切に提供できる体制を整えていくことが重要である。また、情報提供の在り方もさらにより効果的にする。	してはどうか。 ・将来像の中に部活動の充実と興味のあることへの遊びも必要である。 ・多様化する受験の中、学力向上に向けて学ぶことの意義を理解できるようにしてほしい。	る。 ・社会の変化に対応できるグローバルな視点から、キャリア形成力を養成することが必要である。	現に向けて、外部機関との連携を活かし、新情報の収集を積極的に行い、生徒に発信できるよう努める。
4	地域等との協働	○生徒が地域社会の一員として、責任ある態度と使命感を持てるようにする。 ○地域と連携した防災対策と災害時に学校としての役割を果たせるようにする。 ○家庭や地域のもつ教育力を活用する。	○生徒に地域貢献活動へ主体的に取り組ませることにより、地域の一員としての自覚と責任感を持たせる。 ○防災対策や災害時における地域との連携について協議を進める。 ○PTAや同窓会、地域との教育活動における連携を進める。	・行事や委員会、部活動等を通じて地域の団体や施設との交流を進める。 ・連携に向けて自治会、施設、教育機関等との連絡体制を進める。 ・行事等を通じてPTAの各委員会や同窓会、地域との積極的な交流を図る。	・生徒が主体的に地域貢献活動等へ参加できたか。 ・生徒が地域の一員としての自覚を持つことができたか。 ・連携に向けた諸機関との連絡ができたか。 ・PTAや同窓会、地域との交流が行えたか。	・様々な交流の場を通じて、生徒が地域の一員としての自覚を持つことができた。 ・PTAや同窓会との交流は行えており、いろいろな援助もしていただいた。 ・防災対策や災害時における地域との連携についての具体的な対策はまだ乏しいが、本校の防災訓練の視察の依頼や、本年新しい試みとしてDIG訓練を行い、理解を深めた。	・今後は地域の一員としての自覚と責任感を持たせる場の継続が課題である。連絡体制等の確立と引継ぎを行い継続させていかなければならない。 ・PTA活動については書記と会計だけでなく担当する教員全体で関わっていく必要がある。 ・防災対策についての校内措置は徐々に進んでいるが、地域との連携の具体策は引き続き検討が必要である。	・DIG訓練を行ったことは大変良いことであり、評価できる。 ・PTAや同窓会からの温かい援助は素晴らしい。 ・情報発信が必要であり、災害時に何ができるかを考える時間と話し合う場が作れるとよい。 ・今後は、さらなる地域連携として小中高大の連携の深化を検討してほしい。	・部活動生徒が地域の行事への交流活動に参加することで、地域の一員であるという意識が向上してきた。 ・防災対策については、校内での取組みは確立され、地元消防署と連携して避難訓練も行われている。またDIG訓練を行ったことで、本校周辺の地理理解に努めている。 ・地域の教育力の活用については、保護者や地元自治会及び行政等との連携を、今後も検討していく必要がある。	・地域貢献については、日常的に部活動生徒が清掃活動等を行っているが、今後も部活動や生徒会活動の中で、生徒が自主的に関わられるように支援していく必要がある。 ・防災教育については、今後も地域との連携及び協働を図り、地域の一員として災害時を想定した活動ができるような態勢づくりが必要である。
5	学校管理 学校運営	○不祥事防止とOJTにより学校運営を推進できる人材育成の体制づくりを構築する。 ○安全で安心な教育環境を整備するための学校管理に努める。 ○緊急災害時の対応体制を整備する。 ○適切な情報を迅速に発信する。	○学校運営を推進できる人材育成体制を検討し、より効果的にはたらくよう改善する。 ○安全で安心な教育環境を整備するための学校管理に努める。 ○緊急災害時の対応体制を整備する。 ○本校の教育活動を広く発信し、地域への理解と連携を図る。	・校内研修会の充実を図り、人材育成に努める。 ・校内の点検を進め、必要な補修、補充を行う。 ・家庭・地域との連絡方法を確認整備し、必要な物品等の点検・補充を図る。 ・本校及び中学校などでの学校説明会を推進するとともに、ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動を広く発信して地域の理解を図り、連携を深める。	・人材育成が図れたか。 ・点検等の結果、必要な補修、補充ができたか。 ・連絡方法の確認整備、必要な物品等の点検・補充ができたか。 ・各行事等に関する適切な情報発信が行えたか。 ・ホームページの更新が適切に行えたか。 ・学校説明会により中学生や保護者に学校理解を得ることができたか。	・管理職、事務、技能員等と協力して校内点検と必要個所の補修・補充はできた。 ・緊急災害時の対応体制については要項等を整備して、職員へ周知することができた。また、災害時に必要と考えられる備品を予算の範囲内で少しずつ購入している。 ・日常的な生徒活動や学校の取組及び様子を年間233回ホームページにアップし、本校の教育活動を広く発信することができた。 ・近隣中学校での説明会で本校の教育内容等を理解してもらうことができた。	・経年劣化で校舎内外の破損が年々増加しているので、関係各所とよく協議し、適切な対応をすべきである。 ・緊急災害時の対応では、備蓄用品や食料について、職員全員に周知する必要がある。 ・近隣中学生に本校の教育内容を正しく理解してもらうために、より分かりやすいホームページを作る必要がある。	・公共施設の保養について根本から変換しないと無理だと思う。劣化が進んでからの一括修繕より、数年ごとに養生した方がよいと思う。現状では、職員と生徒の日頃の観察と報告により、未然に事故を防ぎ安全管理に努めてほしい。 ・経年劣化の件は、早急に対応した方がよいと思う。 ・引き続き、ホームページを、よりわかりやすく内容を充実させてほしい。 ・教員の業務負担軽減に向けて、業務アシスタントの活用と、仕事の精査に努めてほしい。	・授業づくりプロジェクトチームの結成から、教科や世代を超えたチームづくりを通して研究協議の機会があり、多面的な人材育成が図れた。 ・安全で安心な教育環境整備の一環として、防球ネットの修繕や、校舎の老朽化に伴う補修等を行った。 ・学校環境整備事業として、昇降口内部のペンキ塗りを生徒、保護者、教員の共同作業で実施した。 ・緊急災害時の対応についての要項を、さらに整備するとともに、職員に周知した。 ・ホームページに学校情報を定期的にアップさせ、本校の様子を発信し、地域の理解を図った。 ・より分かりやすい学校説明会とするため、生徒による説明を取り入れている。	・引き続き「チーム麻高」として一致団結して学校運営に取り組むことのできる職員集団を目指すとともに、有望な若手を大切に育てる体制の充実を努める。 ・安全で安心な教育環境を整えるため、保護者や同窓会との連携をより一層深め、環境整備に取り組む。 ・最新の情報や重要な情報については、ホームページへのアップを継続的にを行い、緊急時の情報については、まちcomiメールなどを活用し、迅速かつ正確に伝えることができるよう取り組んでいく。